

県央支部だより

発行
公益社団法人新潟県看護協会
県央支部

ごあいさつ

県央支部長 丸山 聡子
(加茂市役所 こども未来課)

この度、令和3年度新潟県看護協会県央支部集会におきまして、支部長を仰せつかりました。微力ではありますが、役員、支部会員皆様の力をお借りしながら任期を努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大により延期されていたオリンピック、パラリンピックが今年の8月に東京で開催されました。選手の躍動する姿に元気や勇気、たくさんの感動を与てもらいました。その新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種が加速化しておりますが、未だ予断を許さず、変異株の感染拡大により新潟県におきまして特別警報が発令されました。そのような中、皆様は感染リスクの不安を抱えながら日々、多忙な業務に従事されております。

こうした中、全世代型地域包括ケアの実現や、感染症対策への懸命な取組み、ワクチン接種での大きな役割など、社会ではかつてないほど看護の力が求められています。その期待にこたえるためには、どのような事態にも対応できるよう、看護職ひとりひとりの質・能力の向上が必要です。これまで様々な研修や会議が延期や中止となりましたが、コロナ禍において学んだ看護やICTを活用した情報共有、地域連携等新しい様式を取り入れ、スキルアップしていくことの重要性を実感しています。また、すべての人が地域で安心して暮らせる「全世代型地域包括ケアシステム」の構築・推進に向けて、「医療の視点」「生活者の視点」そして「家族を支える視点」を持ち、看護職としての役割を担うことが必要です。

依然として、新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況にありますが、県央支部の活動におきましては、今後も保健・医療・福祉など各分野で働く看護職がスキルアップし、専門性を発揮できるよう努めてまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

第51号 CONTENTS

- ・ 支部長のごあいさつ
- ・ トピックス
- ・ 施設紹介
- ・ 令和3年度 委員会活動について
- ・ 事務局からのお知らせ



認知症をもつ人との サステナブルな未来へ

済生会三条病院

小林 由香 (認知症看護認定看護師)



人生100年時代、みなさんは自分の老いた姿を想像できますか。さらに、認知症になったときの自分の姿を想像したことがありますか。90歳を過ぎた高齢者では6割以上が認知症を有すると言われており、長生きをすれば多くの人が認知症をもつことになります。そして、自分もまたその一人となる可能性は十分にあるのです。それなら“誰からも愛されるおばあさんになりたい”と願ってみるものの、そればかりは分かりません。その時置かれている状況や環境、認知症のタイプ、身体状態によってもどのようになるのかわかりません。しかし、自分がどのような状態になっても、家族をはじめ地域の人々、看護師や介護士など多くの人たちに理解され過ごしたいものです。

済生会三条病院では、原疾患の治療を目的に入院して来られた認知症をもつ患者さんが適切な治療を受け、入院前と同じ状態で退院できるよう医師・社会福祉士・作業療法士・薬剤師・看護師で認知症サポートチームを結成し、病棟スタッフと協同し対応しています。認知症をもつ患者さんへの対応は、時に限界を感じるかも知れません。しかし、どんな状況に直面しても認知症をもつ患者さんを理解しようとする姿勢を第一に考え、その人に合わせた対応を行うことで、必ず患者さんに変化が生じます。認知症をもつ人と支える人、双方にとってサステナブルな理解と対応を目指して活動しています。

施設紹介

三条市地域包括ケア 総合推進センター

三条市役所 高齢介護課
地域包括ケア総合推進センター
主査 渡邊晃代

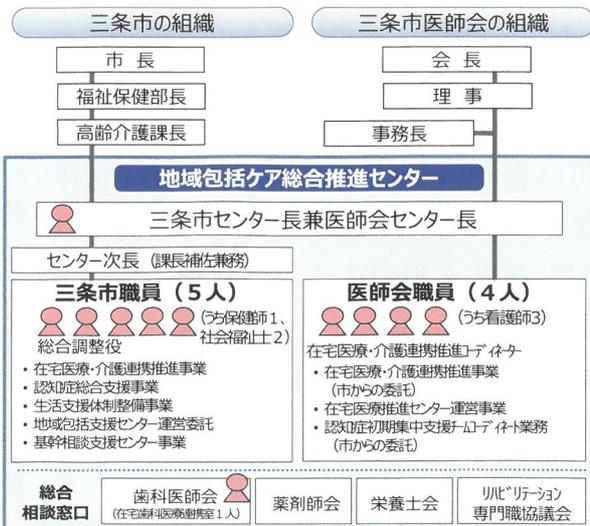
当市の地域包括ケアシステム構築を推進するため、医師会の協力の下、令和元年5月に地域包括ケア総合推進センターを設置しました。当センターのセンター長は、市、医師会両方のセンター長を兼務しています。同一のセンター長の下、市職員と医師会職員（在宅医療・介護連携推進コーディネーター）が同じ場所で執務し、振り向けば相談し合える環境で、支援現場の現状や課題を共有しながら協働して各事業を実施しています。（図1 組織図参照）

当センターで、①地域ケア会議等で把握した医療、介護、生活支援に関する課題の集約、解決策の整理、多職種連携や専門職のスキル向上の取組、地域の支え合い体制づくり等各種事業の実施と、②センター参画団体（歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、リハビリテーション専門職協議会）と連携し、専門職からの相談対応や、事業の企画、実施の総合調整等を行っています。

今年度からは、基幹相談支援センター機能も加え、医療、介護、生活支援、障がい分野の総合調整を担うとともに、権利擁護担当部署とも連携を強化し、多分野に渡り権利擁護の相談支援・啓発等を推進します。



図 1



令和3年度 委員会活動について

保健師職能委員長 高野 智 恵

(加茂市介護・看護支援センター)

保健師職能委員会県央支部の活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

保健師職能委員会は、「研修会」「職能だよりの発行」「交流会」を主な活動として行っております。昨年の研修会では「感染症対策の基礎知識と新型コロナウイルス感染症対策の概要」をテーマに、刻々と変化する感染症対策について学び、保健師の役割や感染症流行時における災害避難所の感染症対策の留意点についてグループワークを行いました。

今年度も感染対策に十分考慮し、保健師活動に活かすことができるような研修会を行えるよう取り組んでいきたいと思っております。

職能だよりでは支部会員の活動を知っていただく良い機会となるよう、会員以外の方や管内病院、保健師養成学校への配付を継続していきます。

交流会については、昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止を余儀なくされました。今後も流行の動向をみながら開催を検討していきます。保健師の活動がさらに充実するように、会員同士のつながりや情報交換の機会を大切にしていきたいと思っております。

最後になりましたが、今年度も引き続き、ご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

助産師職能委員長 高橋 夏 美

(県立吉田病院)

助産師職能委員会県央支部の活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

私たちは、連携・情報交換を目的に、長岡支部と合同で活動をしています。昨年度の研修会は、11月にハイブ長岡にて、「分娩施設における新型コロナウイルス感染症対策について」をテーマに情報交換会を行ないました。

今もなお新型コロナウイルス感染症の影響で活動が自粛される中ですが、コロナ禍であるからこそ、すべての母子が安心して暮らせる社会を目指して「妊娠期からの切れ目のない支援」をテーマに研修会を企画し、準備をすすめています。出産に関わることから、母体搬送や里帰り出産など各施設間での連携が必要となります。また、助産師のみの活動ではなく他職種との連携と推進が必要です。各職能と協働・連携が取れるように活動をしていきたいと考えています。

今後も、研修会を通して、私たち助産師が生き生きと働けるように活動して行きたいと思っております。

引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

看護師職能委員長 榎井 妙子
(介護老人保健施設エバーグリーン)

看護師職能委員は、病院勤務者Ⅰと施設勤務者Ⅱが協力して活動しています。

年1回予定している交流研修会の企画運営が主な活動です。

令和2年度は「看護師と考える腰痛対策」をテーマに作業療法士の方をお迎えして講演いただきました。腰痛予防体操を教えていただき、すぐに実践できる内容で大変好評でした。

令和3年度は10月30日に昨年度同様に感染症対策を行い、「地域包括システムにおける他職種の役割」についての講演会を開催しました。看護職以外の職種の方々も参加されました。機能分化した医療機能の中で、途切れのない継続した看護を実践するための有意義な時間になりました。

引き続き皆様のご協力よろしくお願いたします。

教育委員長 小浦 方 学

(かもしか病院)

教育委員会は、通常集会後の特別講演会の企画運営を行っております。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として通常集会の参加者のみを対象とさせて頂きました。講演は、美容介護セラピストの長岡和美氏から「生涯自分らしく綺麗に生ききる人に」をテーマに、ご自身の介護の体験談、簡単にできるマッサージのレクチャーや篠笛の演奏と充実した内容で「仕事の現場の状況と結びつく内容であった」や「篠笛を初めて聞いて感動した」との意見を頂きました。

来年度の特別講演会も感染対策にも充分考慮し、安全に講演会が開催できるように取り組んでいきたいと思っております。また充実した内容になるようテーマの選定などを行い、さらなる改善を図りたいです。そして、周知方法や講演会のスタイル等も、より会員様のニーズにお応えできるように努めていきたいと考えております

最後になりましたが、今年度も引き続き、ご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【事務局からのお知らせ】

報告

令和3年度 新潟県看護協会県央支部通常集会

新潟県看護協会県央支部通常集会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県央支部役員会議として少人数で開催しました。

また、集会終了後には特別講演会が開催されました。

日時：令和3年6月26日(土) 午前8時45分から11時30分

会場：燕三条地場産業振興センター リサーチコア
7階マルチメディアホール

出席者：45人

特別公演：

「生涯自分らしく綺麗に生ききる人に
～のぞみ叶う和み音と手～」

講師：美容介護セラピスト&篠笛奏者
長岡 和美氏



*新潟県看護協会県央支部会員数 1,261人(令和3年10月18日現在)
(内訳：保健師95人・助産師30人・看護師1,060人・准看護師76人)

お知らせ

令和4年度 新潟県看護協会県央支部通常集会

日時：令和4年6月25日(土) 午前9時から11時30分予定

会場：燕三条地場産業振興センター リサーチコア

*新型コロナウイルス感染症対策のため開催方法を工夫し、集会終了後に特別講演を予定しています。詳細は後日お知らせします。

県央支部 書記 熊倉 真知子

編集後記

県央支部だより第51号をお届けいたします。

お忙しい中、ご寄稿して頂きました皆様、ありがとうございました。

皆様に紹介したい情報・ご意見などありましたら、ぜひ広報委員までお知らせ下さい。

広報委員 佐藤・矢代・後藤・阿部・土田

◎問い合わせ 広報委員長 土田由佳子(燕市役所健康づくり課) TEL: 0256-93-5461(燕市保健センター)